

これは酷い大阪万博アセス「市長意見」

写真は2月21日14時から大阪市役所地下1階会議室で行われた「団体協議」掲示。大阪万博環境アセスメント「方法書」について、夢洲懇談会という市民団体と大阪市の環境局・港湾局との懇談であり、事前に提出した意見に対する回答を受け、2時間近く質疑を行った。

翌22日にレポートしたように、私も愛知万博アセスの成果を踏まえて、万博にふさわしい環境影響評価を実施してもらいたいと訴えた。環境局の担当者は、本市環境影響評価専門委員会から検討結果報告書が出てから、その内容を検討すると繰り返した。

2月26日に公表された専門委員会の「検討結果報告書」は、「方法書の記載内容は対象事業に係る環境影響を行う方法としては概ね妥当なものとする」。そのうえで、全般的事項などの意見を取りまとめたので「大阪市長におかれては、これらの事項が準備書の作成等に反映されるよう事業者を十分指導されたい」とのべている。

そして3月6日14時に「市長意見」が公表された。すぐにネットから入手してA4で1枚の意見を読んで、正直なところ驚いた。どこかで読んだことがあると思って、専門委員会報告書のページをめくると、52ページの指摘事項の「記」以下とまったく同じ文章が並んでいるではないか。

市長意見の冒頭、「本事業に係る環境影響評価方法書について、本市環境影響評価専門委員会の検討結果報告書の内容を踏まえて検討し、事業者が考慮すべき事項を次のとおり取りまとめた」としている。取りまとめた内容が、専門委員会報告書52ページを書き写したものであり、まさに「コピペ」である。大阪市として、担当部局の環境局として報告書を踏まえて検討したのであろうか。

私は懇談会の場で、専門委員会が「専門的・技術的な立場から検討」した結果をもとに、大阪万博らしい環境アセスメントを実施するため、大阪市環境局として独自に検討すべきだと念を押したつもりだ。数多くの市民の意見が、方法書に反映されることを求めた。それが専門委員会報告書の引き写しであり、独自の見解がまったく見られない。大阪市の環境行政を所管する環境局の見識を疑う。これからも万博アセスを注視したい。

(2020年3月9日)

